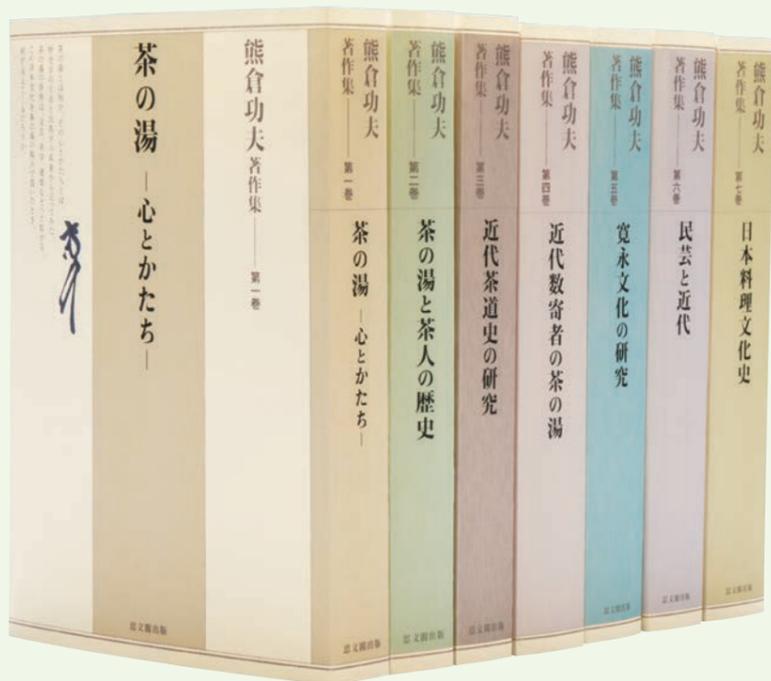


平成28年(2016)7月より刊行開始

思文閣出版

熊倉功夫著作集 全7巻



伝統とは、美とは、日本とは——文化史の諸領域にわたり茶の湯を軸として、
鋭敏な感覚で鮮やかに本質を明らかにし、分野を軽々と飛び越えて新たな
パースプクティブを示し続けてきた著者が、自選によってまとめる七つの小宇宙

全巻購読者特典!

全巻購読者の中で、ご希望の方には、著者の色紙をプレゼントいたします。

- 各巻のカバー折り返し部分の応募券を全巻分集めてご応募ください。
- 応募方法・特典の詳細については、順次小社ホームページなどでお知らせします。

関連書籍のご案内

講座 日本茶の湯全史 (全3巻)

茶の湯文化学会(会長:熊倉功夫)編
日本文化史のなかに位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげ、最新の研究成果をふまえて通覧する。茶の湯の成立から近代までを見通した初めての通史。
四六判/各巻平均330頁
第一巻 中世 本体 2,500円(税別)
第二巻 近世 本体 2,500円(税別)
第三巻 近代 本体 2,500円(税別)



和食文化ブックレット (全10巻)

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食
和食文化国民会議(会長:熊倉功夫) 監修
各界の第一人者がわかりやすく解説する、和食文化の一番基本的なところが学べるテキストシリーズ。
各巻 A5判/96頁/本体900円(税別)
●2015年11月より3か月ごとに刊行

1 和食とは何か	熊倉功夫・江原絢子著
2 年中行事としきたり	中村羊一郎著
3 おもてなしとマナー	熊倉功夫・後藤加寿子著
4 和食と健康	渡邊智子・都築毅著
5 材料と調理	大久保洋子・中澤弥子著
6 和食の歴史	原田信男著
7 うまみの秘密	伏木亨著
8 ふるさとの食べもの	今田節子・清絢著
9 日本酒と和食	
10 緑茶と和菓子	



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票 発行: 思文閣出版 (京都 取引コード3402)

熊倉功夫著作集(全7巻) 平成28年(2016)7月より隔月刊

注文冊数	冊	第1巻 茶の湯 —心とかたち—	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1852-3
	冊	第2巻 茶の湯と茶人の歴史	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1853-0
	冊	第3巻 近代茶道史の研究	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1854-7
	冊	第4巻 近代数寄者の茶の湯	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1855-4
	冊	第5巻 寛永文化の研究	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1856-1
	冊	第6巻 民芸と近代	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1857-8
	冊	第7巻 日本料理文化史	本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1858-5

お名前	Tel
	E-mail

ご住所	〒
-----	---

送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ●最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます
------	--



本書HPのQRコード

刊行にあたって

近世史



二〇一〇年前後から、身辺まことに慌ただしく、それも瑣事にわずらわされることが多くなった。たぶん私一人のことではなくて、若い人を見ていても、実に忙しくしている。どうも日本全体が忙しさ依存症ともいいうべき病状を呈しているように思える。

目前のこの処理に追われるくらいなら、逆に今までやってきたことを整理しておくのもよからう、と思っていたところへ、著作集のお話をいただいた。まだ私の仕事に価値を認めてくださる方がいるならば、過去の仕事を、古稀を機に七冊にまとめてみようかと計画した。しかし私の怠惰の結果、古稀を三年過ぎてようやく実現の運びとなった。

私は茶の湯を軸として研究を進めてきた。茶の湯は日本文化史研究の窓口として実に便利である。思想、民俗、美術工芸、建築造園、さらに飲食、礼儀作法などさまざまな面に開かれている。私の研究は一見幅広く見えるが、実は、すべて茶の湯研究から広げられたにすぎない。また喫茶の歴史という点から、茶の源流を訪ねて中国、インド、ミャンマーなどのフィールド調査もおこなった。茶という視点で歴史以前から近代まで貫く歴史の縦軸と、茶の湯が輝いた寛永文化という時代を輪切りにする横軸とを組み合わせてみることに、私なりの研究領域をつくった。その全体像を七冊にあらわしてみたいと考えたのがこの著作集である。ただし、選書や文庫で流布している著作や茶書の注釈書はこの著作集から省いた。

ほとんど自己満足としかいいようのない著作集であるにもかかわらず、各巻に解説を執筆してくださいと諸兄に心より御礼申しあげる。

●著者略歴

- 一九四三年 東京生まれ
- 一九七一年 東京教育大学文学部博士課程修了単位取得退学
- 一九七八年 京都大学人文科学研究所助手(七七年より講師)
- 一九七八年 博士(文学)の学位を取得
- 一九九二年 筑波大学助教授(八九年より教授)
- 一九九二年 国立民族学博物館教授
- 二〇〇四年 第一研究部長・民族文化研究部長を歴任
- 二〇一〇年 国立民族学博物館名誉教授
- 二〇一〇年 林原美術館館長(一二年)
- 二〇一〇年 静岡文化芸術大学学長(一六年)
- 二〇一二年 農林水産省食料・農業・農村政策審議会会長(一二年)
- 二〇一二年 日本食文化のユネスコ無形文化遺産化推進協議会会長のち
- 二〇一三年 一般社団法人和食文化国民会議会長(現在まで)
- 二〇一六年 茶の湯文化学会会長(現在まで)
- 二〇一六年 M I H O M U S E U M 館長(現在まで)
- 静岡文化芸術大学名誉教授

本書の特色

内容

●茶の湯・民芸・食文化など、文化史の諸領域にわたる著者の広範な業績を全7冊にまとめる

●収録単行本・論文は著者が選択し、テーマ別に分類

●発表後、研究の進展により新たに明らかにされた点など、とくに注意すべきところは、補注・補記を付した

●主要な人名・事項について索引を付す

●各巻ごとに、テーマにふさわしい論者による解説を付す

体裁

- A5判／上製本／カラーカバー装／各巻平均450頁
- 本体価格(各7,000円(税別))
- 平成28年(2016)7月より隔月に刊行

第一巻 茶の湯―心とかたち― ●平成28年(2016)7月刊行

- I 茶の湯―わび茶の心とかたち―
- 茶の湯―わび茶の心とかたち―／茶の湯のなかの民俗的要素／花見茶の湯／茶とコーヒー
- II 茶道論とその系譜
- 茶道論の系譜／秘伝の思想
- III 数寄の美学
- 茶の湯美学の試み／茶の湯の連歌的性格／型の厳密性とゆるめき―茶書『南方録』にみる型の特質―
- IV やつしの美と空間
- 室内芸能論序説／やつしの空間／数寄屋の美学／茶室―建築と道具の間―
- V 近世の芸能と生活
- 近世における芸能の展開／遊芸の世界―茶の湯といけばな―
- 解説 中村修也(文教大学)

第二巻 茶の湯と茶人の歴史― ●平成28年(2016)9月刊行

- I 千利休と山上宗二
- 新しい美を創造する／千利休の目／武野紹鷗と利休／『江岑宗左茶書』のなかの千利休／「利休の死」そして本覚坊のこと／山上宗二の生涯と茶の湯／山上宗二の茶の湯論
- II 千家茶道の道統
- 千少庵伝断章／千宗旦の茶の湯と逸話／続・千宗旦の茶の湯と逸話／仙叟宗室の生活と茶の湯／真巖宗見文書について／家元制下における共通の特質―一八世紀における茶の湯を中心―／千家十職の歴史と特質／如心斎と千家の継承
- III 小堀遠州とその周辺
- 茶の湯咄の中の古田織部／小堀遠州の生涯と茶の湯／茶話のなかの小堀遠州／禁裏・公家の茶の湯
- IV 大名の茶の湯
- 徳川秀忠の茶の湯／上田宗箇・人と茶の湯／土屋蔵帳の世界／「つよくてうつくしき」鎮信の茶／数寄大名池田治政とその茶の湯／井伊直弼の生涯と茶の湯
- 解説 谷端昭夫(裏千家学園)

第三巻 近代茶道史の研究― ●平成28年(2016)11月刊行

- 近代茶道史の研究(茶道研究の課題とあゆみ／近代茶道の胎動／近代茶道の成立／近代茶道の展開／現代の茶道／近代茶道主要文献年表)
- 解説 田中秀隆(三徳庵)

第四巻 近代数寄者の茶の湯― ●平成29年(2017)1月刊行

- I 近代数寄者の茶の湯
- 明治の青年／数寄者の誕生／数寄者の茶会／数寄者の思想／おらが茶の湯／近代数寄者年表
- II 昭和茶道史
- 明治・大正から昭和へ／茶書の出版／稽古場の人びと／小林逸翁の新茶道／茶事と懐石／利休居士四〇〇年遠忌に学ぶ
- III 高橋箒庵と護国寺／西川一草亭論／益田鈍翁―人と茶の湯―／熱誠の数寄者、畠山即翁ほか
- 解説 原田茂弘(表千家不審菴文庫)

第五巻 寛永文化の研究― ●平成29年(2017)3月刊行

- I 寛永文化の研究
- 寛永文化をめぐる三つの仮説／戦国的なもの／徳川幕府の朝廷政策と公家
- 家業／寛永文化と知識人層／公家衆の生活と文化―元和七年公家日記をとおしてみた―
- 桂離宮―その作者と時代―／大名茶の成立／近世初頭における大名茶の性格―小堀遠州と加賀前田家―／茶書『草人木』の成立／『板倉政要』と板倉京都所司代／三千家と宗旦四天王／『洛陽名所集』の著者とその父
- II 寛永文化人としての松花堂昭乗／後水尾院と修学院離宮／日本遊芸序考―数寄者と茶の湯―／知識人の教養
- III 〈史料翻刻〉『板倉政要』(第6〜10巻裁判話の部)
- 解説 松澤克行(東京大学史料編纂所)

第六巻 民芸と近代― ●平成29年(2017)5月刊行

- I 民芸の発見
- 民芸の発見／手紙のなかの柳宗悦／私信にみる二人の関係―柳宗悦書簡集より―／柳宗悦の歌集
- II 文化としてのマナー
- マナーを風俗文化としてみる／食事作法とは何か／食事作法の変化／のむ作法／問の礼法／茶道と近代の女性礼法／近代作法書を読む／「国民礼法」の成立／マナーの行方
- III 伝統芸能研究の方法／家元制度の分析／文明開化の風俗／風俗(岩波「近代思想」解説)
- 解説 中野目徹(筑波大学)

第七巻 日本料理文化史― ●平成29年(2017)7月刊行

- I 日本料理文化史―懐石を中心に―
- 唐菓子と柏餅／懐石の誕生／近世公家の懐石／千家茶会記にみる懐石／茶書にみる懐石の心得／大饗料理／本膳料理／精進料理／食の作法／中世の食文化点描―大工・荘園・都市―／日本の食文化における外来の食
- II 酒と社交／食文化史における思想／食の美学／食卓生活史の質的分析―食べものと食べかた―／料理・茶の湯・風流―湯木貞一翁の世界―ほか
- 解説 原田信男(国士舘大学)

●単行本は赤色で示した
●収録内容については、編集上の都合により一部変更することがあります